

ダイジェスト版

# グローバル経済における 公認会計士の使命と役割期待

慶應義塾大学 商学部

2016年1月19日

公認会計士・監査審査会  
常勤委員 廣本 敏郎

# 本日のポイント

---

- 会計・監査は、市場経済の重要なインフラです。
  - 市場経済は、会計なしには機能し得ません。
  - 金融・資本市場の公正性・透明性を確保するために、監査が不可欠です。
- 公認会計士は、公的使命を持って会計・監査を担うプロフェッショナルです。
- 公認会計士は、監査業界だけでなく、社会のさまざまな場面で活躍することが期待されている会計・監査の専門家です。

---

会計なくして経済なし  
市場経済を支える簿記会計

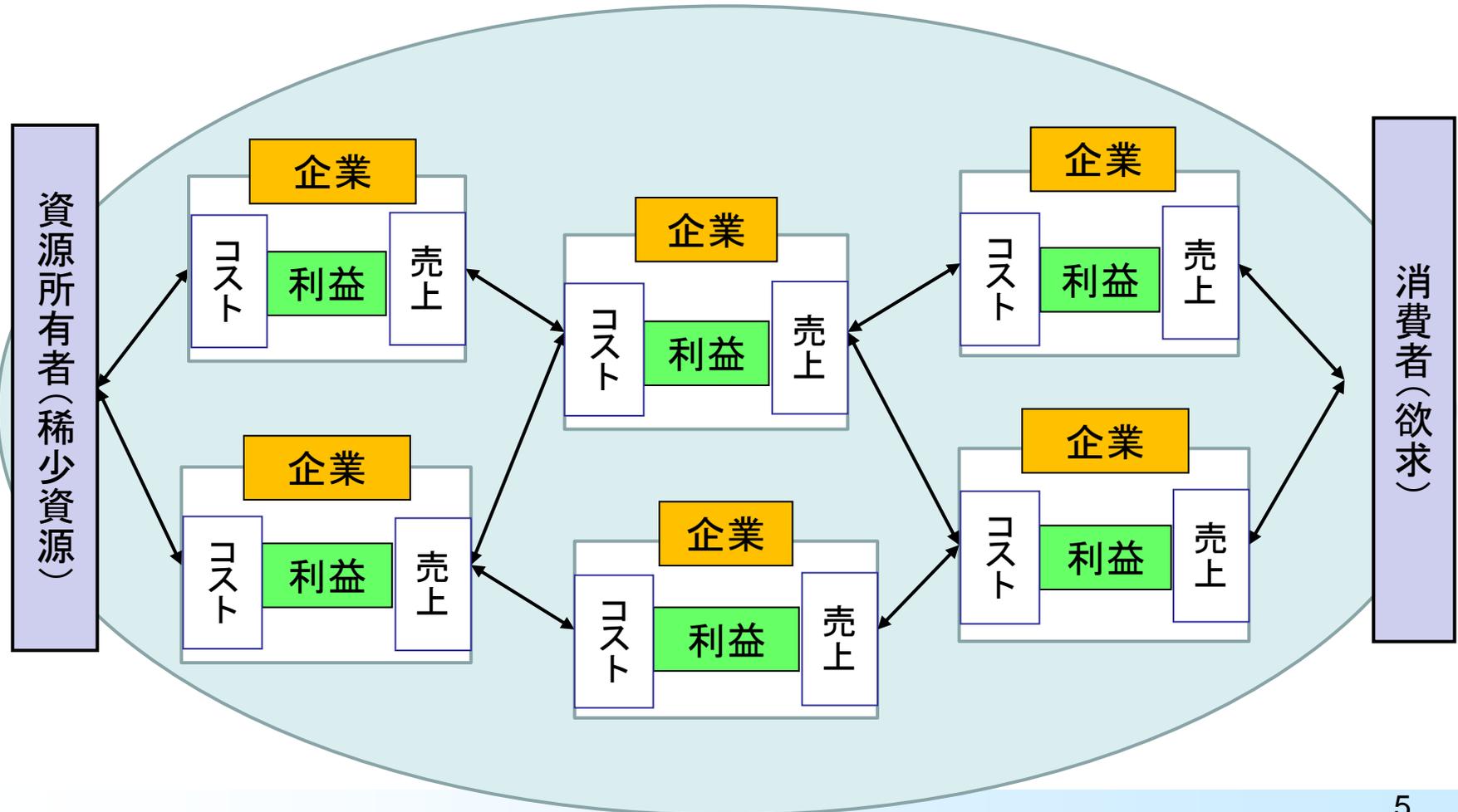
# 市場経済の制度

- 経済は一方における人間の欲求と、他方において、これを満たすための資源との関係から成り立っています。労働、土地、資本などの資源を組み合わせ、人々が欲するものを作り出す資源配分のプロセスが経済活動です。
  - 限られた資源と無限に近い欲求とは緊張関係にあり、稀少資源を合理的に利用し、できるだけ大きな欲求を満たすことが至上命令として課せられます。そこから「効率」という概念がでてきます。この基準を満たすために、人類は自由競争を基調とした市場経済の制度を作り出しました。

(塩野谷元一橋大学学長、如水会報より)

# 会計なくして経済なし

～企業の行動原理「売上最大、コスト最小」～



# 利益を測る技術の誕生

---

- 利益を測る技術としての「複式簿記」
  - それは、遅くとも1400年代の北イタリアで、地中海貿易に従事した商人たちによって生み出された。

## 歴史上の証拠

ルカ・パチョーリ(1445-1517)がヴェネツィアで1494年に出版された数学の教科書の中で利益測定技術（複式簿記）を解説

(桜井久勝神戸大学教授の夢ナビライブ講義より)

# 複式簿記の伝播と日本への導入

---

- 複式簿記は、明治の文明開化によって、さまざまな文物とともに西洋から日本に導入された。
  - 日本への導入は、明治6年（1873年）6月、福澤諭吉が、Book-keepingを翻訳（『帳合之法』）して出版したことに始まる。

# わが国への複式簿記の導入

---

- 明治初期の最も早い簿記学校は、1873年福澤諭吉が日本橋の書店丸屋善七の二階を借りて始めた帳合稽古所であろう。
- 慶應義塾で『帳合之法』による授業が最初に行われたのは、三田の本校でなくて、荘田平五郎が1873年大阪に設立した大阪慶應義塾においてであった。本校で簿記が教授されたのは1879年からである。

(続く)

## わが国への複式簿記の導入（続）

---

- 慶應義塾の貢献は、福澤自身よりもその門下生によって果たされた。
  - 明治10年代に入って出版された多数の簿記啓蒙書は、商法講習所・東京商業学校の教師、卒業生とともに、福澤の門下生によるものが多い。
  - 全国の商業学校の設立にも福澤門下生が多数関係している。

（一橋大学学園史刊行委員会 『一橋大学百二十年史』  
1995年、39-40頁）

---

会計なくして経済なし  
市場経済とモラル～理念

# アダム・スミスが描いた市場経済

- 経済の世界は、「自分自身の境遇を改善せんとする欲望」によって導かれている世界である…利己心というものが経済という世界の原動力である…
- （しかし）スミスによると、この利己心というものは、めいめいが何でも勝手放題なことをしてよろしいというのではなく、そこに一つの社会性がなければならぬということになっている。社会的な枠のない、無軌道な、勝手気ままな欲望の追求というものは、人間の行為でもなければモラルでもない。

（高島善哉『アダム・スミス』岩波新書、1968年、76頁）

# わが国資本主義経済の原点

## ～渋沢栄一の理念～

- 「日本の資本主義の父」と称される渋沢栄一は、利潤追求をめざす経済行為の中にも道徳が必要なことを悟っていた。
  - 私が常に希望しているのは、「物事を進展させたい」「モノの豊かさを実現したい」という欲望を、まず人は心に抱き続ける一方で、その欲望を実践に移していくために、道理を持って欲しいということである。その道理とは、社会の基本的な道徳をバランスよく推し進めていくことに外ならない。

(渋沢栄一 (守屋淳訳) 『現代語訳 論語と算盤』  
ちくま新書、2010年、89頁)

---

会計なくして経済なし  
市場経済とモラル～実務

## 松下の経営と会計

---

- 利益というものは、健全な事業活動を行っていく上で欠かすことのできない、大切なものである。
  - しかし、それ自体が究極の目的かというところ、そうではない。
- 根本は、その事業を通じて共同生活の向上を図る、というところにある。

(続く)

## 松下の経営と会計（続）

---

- その根本の使命をよりよく遂行していく上で、利益というものが大切になってくるのであり、そのこのところを取り違えてはならない。
  - そういう意味において、事業経営というものは、本質的には私の事ではなく、公事であり、企業は社会の公器なのである。

（松下幸之助 『実践経営哲学』 PHP研究所、  
1978年、26頁）

# 京セラの経営と会計

---

- 資本主義社会は、利益を得るためなら何をしてもいい社会ではない。
  - それは、参加者全員が社会的正義を必ず守るという前提に築かれた社会なのであり、厳しいモラルがあってこそ初めて、正常に機能するシステムなのである。

(続く)

## 京セラの経営と会計（続）

---

- 社会正義が尊重され透明性の高い社会が築かれてこそ、市場経済は社会の発展に貢献できるようになる。
  - そのためには、資本主義経済を支えている経営者が、高い倫理観を持ち、すべての企業がフェアで公明正大な経営を実践していく必要がある。

（稲盛和夫『実学—経営と会計』日本経済新聞社、  
1998年、161頁）

# 企業の現実と課題

## ～繰り返される企業不祥事～

---

- (企業不祥事が繰り返される現実... 著名な乳業会社のずさんな衛生管理、名門自動車会社によるクレーム情報の隠蔽、更に最近の事例も...)
  - なぜこのような事件が発生したのか。それにはさまざまな原因があろうが、どちらも名門の企業でありながら、経営者も従業員も、ともに企業の社会的責任を自覚せず、企業倫理感覚を喪失してしまったためであり、この点については社会的に厳しく非難されねばならない。... (続)

## 企業の現実と課題（続）

---

- 企業経営を成功させるには、企業倫理規範を確立し、それを遵守することが大前提である。これは、個人の利益や企業の利益と、社会の利益とが衝突する場合に問題となることが多い。...他方、トップマネジメントは、企業内のすべての人々から、信頼できるデータや公正な意見を受け取らねば、企業を経営できないことも明らかである。したがって、...（続）

## 企業の現実と課題（続）

---

- 会計情報システムに責任をもつ管理会計担当者としても、職業倫理上、何をすべきであり、何をすべきでないか、という倫理規範を確立し、トップマネジメントに対し、良い情報も悪い情報も、正確に提供しなければならない。

（岡本清、廣本敏郎、尾畑裕、挽文子『管理会計』  
中央経済社、第2版第29刷、2015年10月、25頁）

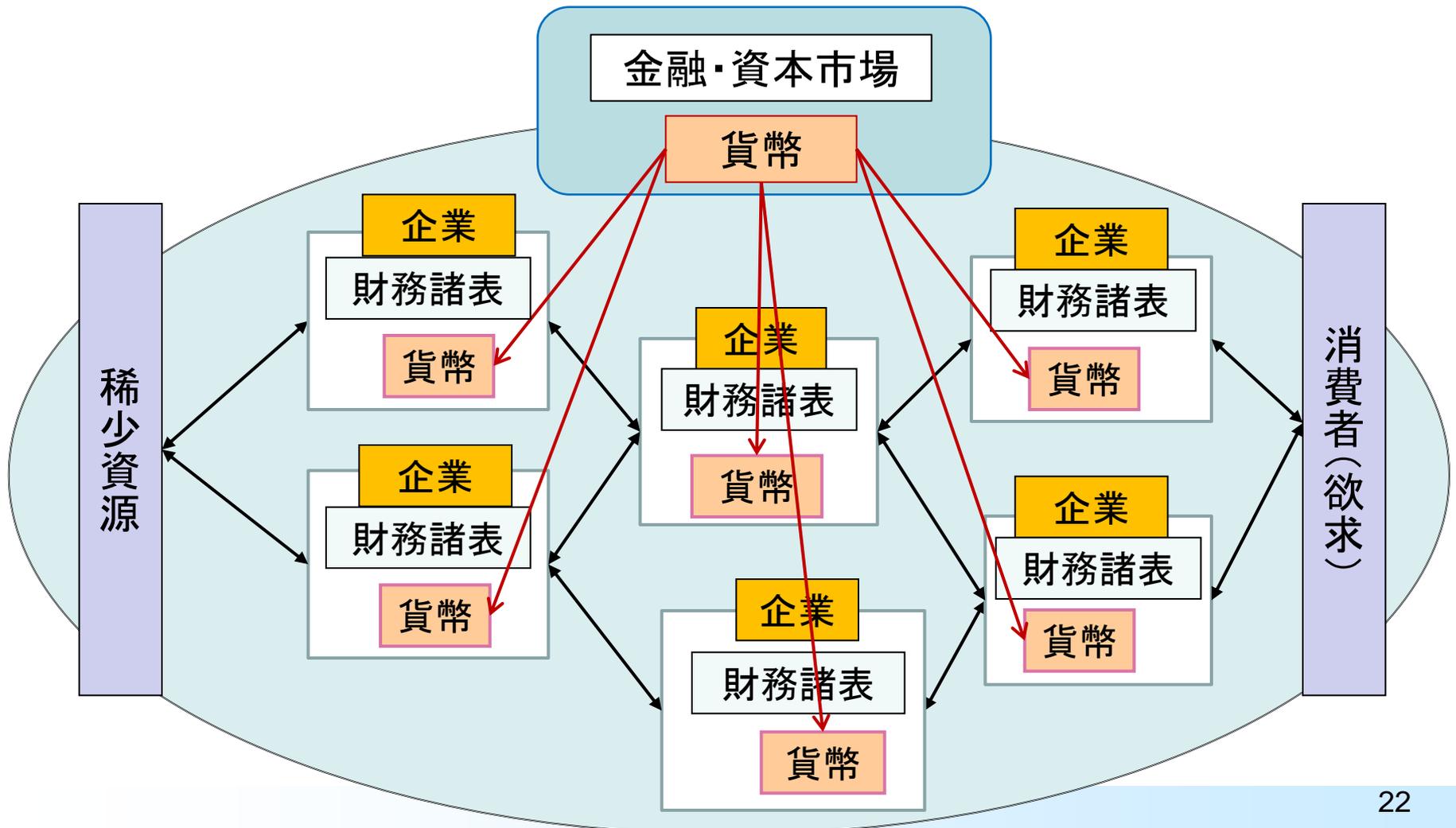
---

会計なくして経済なし

金融・資本市場における公認会計士の役割

# 実体経済を支える金融・資本市場

～国民経済における資金の有効かつ効率的配分～



## 公認会計士の役割と責任 ～所有と経営の分離～

---

- 企業が小規模で、その経営はオーナー経営者によって行われ、また、取引が比較的単純な性格のものであったときには、会計基準の必要性はほとんどなかった。しかし、
  - 大会社が出現、所有と経営の分離傾向が生じると、会計の任務は拡大された。
    - すなわち、オーナーでもある経営者のために会計を行うことに加えて、不在出資者への情報提供という機能が生まれた。

(続く)

## 私的な会計から公的な会計へ

---

- 大会社は準公共的な制度であり、大規模企業の行動を通じて社会的協力を遂行する機構である。大会社の業務活動は、直接の経営者や株主達の関心事たるにとどまらない。会社経営者の責任は、広く各種の方向に行き渡っている。
  - かくして、信頼し得る、適切な情報を提供するという会計の義務は、公衆の利益に結びつき、会計は公的な性格を帯びてきた。

(続く)

## 私的な会計から公的な会計へ（続）

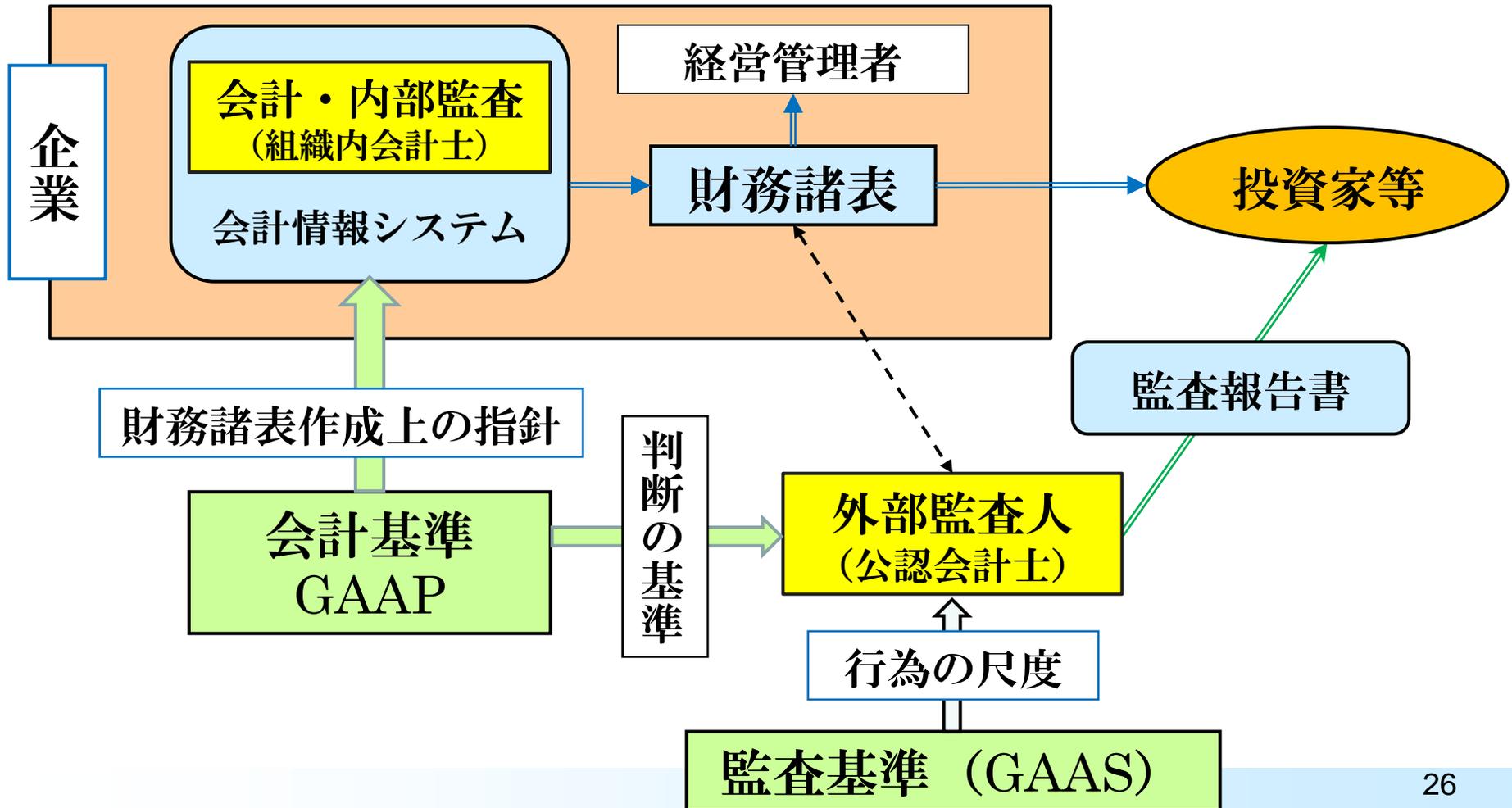
---

- 会計の公的な義務が認識されているかどうかを見究める、という役割の多くは、公認会計士の肩にかかっている。
  - 公認会計士は、この責任を果たすため、広い理解と鋭い正義感、そして高度の独立性を備えなければならない。

（ペイトン＝リトルトン（中島省吾訳）『会社会計基準 序説（改訳）』森山書店、1958年、1-6頁）

# 財務情報の信頼性確保のシステム

## ～公認会計士の重要性～



# 監査の意義とその有用性

## ～IAASB議長の見解～

「外部監査は、財務情報の品質と信頼性、財務報告及び開示に対する公共の信頼性、ひいては国内経済や世界市場の効率的な運営を支えるものである。したがって、外部監査は規制・監督に関わるインフラの重要な要素であり、公益に大きく関わるものである。

また、監査は、監査の誠実性（integrity）と品質に対する社会の信頼があってはじめて、有用性を発揮できるものであるため、経営者、監査委員会、規制当局、一般市民等を含む利用者にとどのように認識されるかということも重要である。」

（シルダー「監査品質のさらなる向上にむけて」『会計・監査ジャーナル』  
2011年4月号、31-32頁）

公認会計士の世界  
3つのキーワード



# 目指せ、公認会計士!

～ 公認会計士試験にチャレンジしてみませんか～

## I. 公認会計士とは? — “監査” 及び “会計” の専門家

### 公認会計士の 使命

公認会計士は、国家試験である公認会計士試験に合格した者だけに与えられる資格であり、公認会計士法にその使命等が規定されています。

《公認会計士法第1条》

公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命とする。

### 会計なくして 経済なし

公認会計士は、グローバル化が急速に進む日本経済の健全な発展のために、監査人、コンサルタント、組織内会計士など、経済社会の様々な局面で、きわめて重要な役割を果たすべく幅広く活躍しています。

**GLOBAL**

金融・資本市場のグローバル化、  
企業の海外展開等に伴い、  
活動のフィールドは世界に広がっています。

グローバル経営戦略の策定  
海外子会社を含むグループ決算

**公認会計士**  
Certified Public Accountant  
(CPA)

**PROFESSIONAL**

監査・会計の専門家として、  
高度な専門知識を活かし、  
多様なニーズに応じて専門的な視点から  
助言・指導を行っています。

株式公開支援・M&A・組織再編

※このほか、税理士として登録を行うことにより、  
税務業務を行うことができます。

**MISSION**

資本市場の番人として、  
企業等の財務情報の  
信頼性を確保し、  
投資者等を保護しています。

企業が作成する決算書の検証

---

**活躍する公認会計士**  
監査だけでなく経済社会で幅広く活躍

公認会計士・試験合格者の活躍フィールド

## 公認会計士・試験合格者の様々なキャリアパス

公認会計士＝監査法人勤務とイメージされる方が多いと思います。

しかし、監査業界に限らず、社会の様々な場面で会計専門家の知識・経験・判断力が必要とされています。

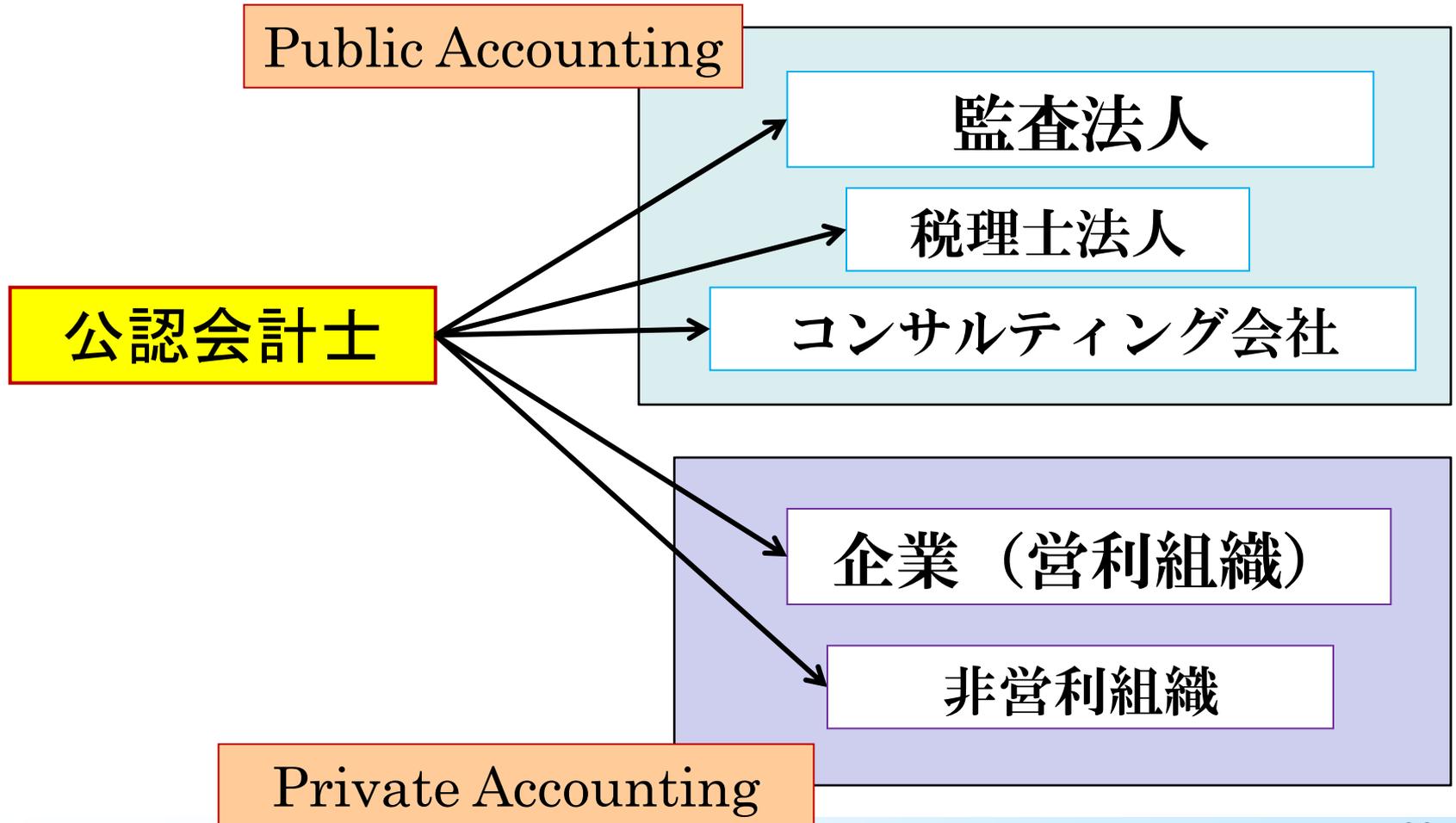
あなたも、より広い視野を持って、将来のキャリアパスについて考えてみませんか？

### 【会計専門家の専門的知識等が求められる分野の例】



2

# 公認会計士の活躍領域



---

**ご清聴ありがとうございました**

**充実した大学生活を送ってください**

**公認会計士・監査審査会  
廣本 敏郎**